毒針持つ「ヒアリ」国内初確認

環境省は13日、南米原産で毒針がある外来種のアリ「ヒアリ」が国内で初めて確認されたと発表した。神戸市で荷揚げされた中国からのコンテナ内で見つかった。アリは殺虫剤で駆除したが、外部に逃げ出した個体がいないか、同省で周辺を調査している。

国内で初めて見つかった外来種のアリ「ヒアリ」（環境省提供）

ヒアリは体長約2・5～6ミリ、赤茶色をしており、北米や中国などでは既に定着している。毒針で刺されると激しい痛みとともに腫れ上がる。アレルギー反応で死亡する恐れもあり、同省は見つけても手で触れないよう呼びかけている。コンテナは5月20日に神戸港に到着した後、兵庫県尼崎市に輸送された。26日に通関手続きを行う業者が中身を確認したところ、幼虫や卵を含む大量のアリを発見して通報した。

強毒ヒアリ 国内初確認

神戸港経由、尼崎で

環境省は13日、特定外来生物で強い毒を持つ南米原産の「ヒアリ」が、中国から神戸港に入港し尼崎市内に運ばれたコンテナの中で発見された、と発表した。国内での確認は初めて。

国内で初めて侵入が確認されたヒアリ（環境省提供）

同省によると、5月20日に中国広州市から神戸港に到着した貨物船のコンテナを同26日に尼崎市内で開けたところ、床や壁面で大量のアリの成虫や卵を発見。密閉し、今月1～5日に駆除した。調べた結果、9日にヒアリと分かった。

体長2・5～6ミリメートル程度で赤茶色、腹部はやや黒っぽい。攻撃性が高く、強い毒を持っており、刺されると、体質によっては呼吸困難などを伴う急性アレルギー反応「アナフィラキシーショック」を起こす危険性があるという。

広州市では既にヒアリがすみ着いており、同省は「積み出す際にコンテナ内部に付着していた可能性が高い」としている。

今後、神戸港内でコンテナを留め置いた2カ所と尼崎市内のコンテナの開封場所で、周辺への侵入がないかを確認する。

（大盛周平）

猛毒「ヒアリ」国内初確認

兵庫のコンテナ、駆除

環境省は13日、強い毒を持つ外来種のアリ、「ヒアリ」を国内で初確認したと発表した。中国から貨物船で運ばれたコンテナの内部にいるのを、兵庫県尼崎市で見つけ、消毒して死滅させた。環境省は「現時点ではヒアリが定着し繁殖している可能性は低い」としている。

ヒアリは赤茶色で体長2・5～6ミリ。刺されるとやけどのような激痛が走る。毒針で何度も刺すほど攻撃性が高く、アナフィラキシーショックによる死亡例もある。

発表によると、中国・広州市の港から出航した貨物船で運ばれたコンテナが、5月20日に神戸市の神戸港（ポートアイランド）に陸揚げされて25日まで保管、26日に尼崎市で積み荷を取り出す際に、内部でヒアリの集団を見つけたという。6月1日に神戸市にコンテナを移動させて消毒を始め、5日に終えた。

環境省は「周辺に侵入した可能性を否定できない」として、コンテナが一時的に留め置かれた神戸市と尼崎市の計3カ所の周辺で捕獲わなどを設置し、緊急調査をしているが、見つかっていない。ヒアリは南米原産だが、一度定着すると根絶は難しく、今では北米、中国などに生息している。

（戸田政考、写真は環境省提供）